

### 天田愚庵ぐあんの生き方と歌から学ぶ



静岡図書館友の会 副代表  
山田 健司

天田愚庵ぐあんは幼少を久五郎といったが五郎と改名し仏門に入って愚庵と称した。父は磐城平藩家臣で勘定奉行を勤め、母は藩医の娘だった。

愚庵の波乱な生涯の幕明けは戊辰戦争から始まった。生き別れになった父母妹を20年間(15歳から34歳まで)探し訪ねて流転生活を送った。想像を絶する苦難のなかで、国学者落合直亮に出会い国学を学び、後年は丸山作樂さくらに万葉風和歌を学んだ。清水次郎長と出会い次郎長の伝記『東海遊俠伝』を書き世に出した。『戊寅口占』の詩歌集では妹を想う歌を詠んだ。

#### 清水港の宿りにて

「せこやこいし勢子や恋しとおもふより  
夢に入りしかあはれ我妹子」

又

「我が妹をおもふものから妹が我を  
こひんこころもかくやとぞしる」  
(歌碑は次郎長「船宿」の庭に立つ)

愚庵は父母妹の探索で多くの人たちと出会った。山岡鉄舟に知られたのは19歳のときだった。その後、清水次郎長の養子になって富士裾野開墾事業を手伝ったり、旅回りの写真師になったり、大阪内外新報社の新聞記者になったりしたが、34歳のとき心の内に父母を求めて仏門に入って僧侶になった。京都を安息の地として産寧坂に庵を結び、禅と詩歌と旅の生活を始めた。明治の文人たちが多く訪ねて来たが、なかでも正岡子規には大きな影響を与えた。

愚庵の生き方に心ひかれる由縁は、終生父母を慕い訪ね続けたことにあった。

#### 父母を夢に見て

「愛子まなこわれ巡り逢へりと父母のその手を執れば  
夢はさめにき」

「夢ならば継ぎて見ましと思へど  
音のみ泣かれていぬがてぬかも」

#### 発卵感嘆みずのとうかんかい

「ちちのみの父に似たりし人がいひし  
我眉の毛も白く成りにき」

#### 「かぞふれば

我も老いたりははそばの年より四年老いたり」

明治26年6月12日、清水次郎長が死去した3か月後に一人旅装をととのえて西国三十三か所霊場巡礼の旅に出た。93日間、里程400余里。父母菩提と衆生結縁の祈願のためであったが、恩人山岡鉄舟と清水次郎長の冥福を祈ることもあった。その翌年、『巡礼日記』を刊行した。のちに芭蕉の『奥の細道』に匹敵する名著と評された。西国三十三か所霊場巡礼の神聖な旅を成し遂げて達成感を味わい、庵も産寧坂から伏見桃山に移して生活も詩歌も変化していった。

親交の正岡子規が夭折し、若い時の無理もあり肉体は衰弱して死期が近いことを感じとっていた。明治37年1月17日、法弟に読経させ、枕元には中川小十郎(立命館大学創設者、西園寺公望公秘書)らに看取られて静かに目を閉じ息が絶えた。51歳だった。

辞世歌に「大和田に鳥もあらなくに  
梶緒たえ漂う船の行方知らずも」

天田愚庵が死去して117年になるが、生き方と歌からは学ぶべきものが多くあるように思えてならない。

## ～静岡に育てられて～



東京・杉並区立図書館司書  
ゆずりは文庫

村岡 純子 

私は「文庫」を名乗っていますが、本棚を持たない文庫です。自分の頭と背中に本を背負って、本と子どもをつなぐためにはどこにでも出掛けて参ります。

子どもの頃から「図書館の人」になりたかった。なぜか「移動図書館の人」になりたかったので、そのために車の免許を取りました。自分の図書館を作りたいと思いました。そこにはいろんな人が来るから、外国語と手話を勉強しました。子どもがトンボを見た時、ある子は本でその種類を調べたいかもしれないし、トンボの物語を読みたいかもしれないから、図書館。ある子は、飛ぶ仕組みを研究したいかもしれないから、科学実験室。自分も飛んでみようと思う子のためには、劇場。その3つがあるスペースを作りたいと、ずっと夢見てきました。でも、全然中身が伴いませんでした。その中身を作ってくれたのが、3人の子育てと、その子育てをした場所・静岡です。

私が最初に住んだ静岡は、静岡市遠藤新田で、最寄りの市立図書館まで、バスで40分かかりました。地域の皆さんは、もっと近くに図書館をつくるために熱心に活動なさっていて、その中心となっていたのが「やかましむら文庫」。そこに強力な相談役として草谷桂子さんが関わっていらっしゃいました。

公立図書館の設置という意味では恵まれた区で育った私は、「地域に図書館があることの意味」というものをよく考えたことがありませんでした。子どもたちを連れて「やかましむら文庫」に通ううちに、「美和に身近な図書館をつくる会」のお仲間に入れていただくようになって、地域に図書館がある意味、市民にとっての図書館のあり方を、しっかりと我が身にしみこませていただきました。この経験が、現在公立図書館で働くにあたってとても役立っています。

次に住んだのが三島市です。今度は道を渡るとそ

こが市立図書館という家に住みました。ここでは、利用者として、市民として、図書館と協働して行う活動を経験させていただきました。三島に住んで6年目からは市立小学校司書として働き始め、地域で子どもたちのために活動している団体や、保護者ボランティアさん達と手をつないで、本と子どもたちに関わるイベントをたくさん開催させていただきました。その中の一つが、三島市出身の絵本作家スギヤマカナヨさんとのワークショップでした。このご縁が、草谷さんが文章、スギヤマさんが絵を担当なさった『あいうえあそぼうとしょかんで』（子どもの未来社）につながるのに、ささやかなお手伝いが出来たことは、私の宝物です。



ワークショップの様子 カルタづくり(左)・カルタつり(右)

図書館は、ただあればいいわけではない。そこに多くの人に関わってお互いを育て合うことが大切であることを、私は静岡での経験を通して教えてもらいました。この度、スギヤマカナヨさんが静岡市立図書館と静岡図書館友の会共催の「しずとしょフェスタ」でお話なさると伺いました。図書館を思う人々のつながりが、また一つ増えることが大変うれしいです。



スギヤマカナヨさん(左)と筆者 

# 「Art book shop りぶらりお」のこと



静岡図書館友の会運営委員  
浅井 康子



昨年末に草薙に本屋をオープンさせてから早くも半年が経ちました。

この度、しずとも会の会報で語る機会を頂きましたことを大変ありがたく思っています。



「Art book」を店のタイトルに掲げるのは、私はずっとアートに関わる仕事がしたくて、“自分に何ができるか？”

を考えるうちに、『太古の昔から人智は本というメディアに収められてきた。アートというテーマで本を見れば、本屋を営むことでアートに関われる』という考えに行き着いたためです。

そもそもアートブックとは何か？ですが、古今東西の様々なアーティストの表現には、基づく『考え』があり、それを収め残した本をアートブックとしています。カテゴリーにとらわれず、オールジャンルで考えています。



私たちがギャラリーや映画館へ行ったり、物の質感やデザインに心惹かれるのは、それを創った

作者の考えと交流したいという欲求から生まれるものだと私は思っています。その姿は本を読む人の姿とも重なります。本を読むことは他者の考えを知りたい好奇心と、一つの考えを受け止めた上で、自分の考えを導こうとする参加型の交流だと思うからです。

創り手とオーディエンスの関係の本質は『考え』の交流だと私は常に思ってきました。

古今東西のアーティストが残した、普遍性のあるアートブックを扱う空間で、他者の考えを知り、受け止め、共有し、交流する場所にしていこうと店のコンセプトにしています。



これからやっていきたいことは、静岡で活動する作家さんを紹介する展示会や、フリーペーパーの発行、ショートムービー研究会の立ち上げなどです。

コロナ禍でのスタートでしたが、この期に感じたことや考えたことは、初めてのことが沢山あり、充実していました。

いつの時代もアートは人の生き方を問い直す潮流を起こしてきました。この小さな本屋が小さなきっかけになればうれしいです。

## 県知事候補者に公開質問状を送りました

2021年6月20日(日)、静岡県知事選が実施され、川勝平太氏が四選を果たしました。当会ではそれに先立ち、県知事候補者へ「公開質問状」を送付し、事前に回答をいただきました。当選された川勝平太氏の回答は次の通りです。この質問と回答は当会HPで公開しました。また6月11日(金)の静岡新聞にも掲載されました。

Q1. 「新県立中央図書館整備計画」についてのお考えをお聞かせください。

A1. 県内図書館の中核をなす県立中央図書館は、静岡県の知性を体現する存在と言えます。現在の県立中央図書館の施設の老朽化は待たなしであり、現在の計画を遅らせることなく着実に進めていくことが必要です。整備にあたっては、調査研究など県立図書館の根幹機能を確実に果たすとともに、時代のニーズに合わせた新たなタイプの図書館として、全国に「静岡県立中央図書館ここにあり」と誇れる図書館を目指します。

Q2. 運営形態は指定管理者等の外部委託ではなく、根幹機能の県教育委員会による直営を維持しますか。

A2. 選書やレファレンスなど、県立図書館として果たすべき根幹機能は、県教育委員会による直営を維持します。

Q3. 設計者及び設計者審査委員には、「新県立中央図書館整備計画」に沿って、職員や利用者からの意見を十分に反映させることのできる人選を考慮されますか。

A3. 新図書館の施設を、東静岡地区全体の価値を高めるような風格と、利用しやすい機能性とを兼ね備えたものとするために、最高の設計者を選ばなくてはなりません。そのためには、審査委員にも世界的な評価を得ている建築家や図書館の実情に詳しい有識者をバランスよく配置することが大切であると考えます。

Q4. 現施設よりもかなり面積が広がる新館には、県立図書館の使命を果たしうる十分な資料が継続して必要です。また資料が豊富であることが利用者増になります。資料費についてのお考えをお聞かせ下さい。

A4. 施設がいくら立派でもそれにふさわしい質と量の本がなければ図書館とはいえません。県民の情報拠点として信頼されるに足る資料構築をしていくために、安定、継続して資料を購入していくことが必要です。

Q5. 静岡県立中央図書館では、昨年度から図書館専門職としての司書採用が復活し、全国的に注目・評価されています。図書館専門職制度による専門職(司書)の採用養成についてお考えをお聞かせください。

A5. 図書館の構成要素は「建物、本、人」と言われるように、図書館にとって専門的な知識をもった司書がいることはたいへん重要です。これからも司書の採用と養成を計画的に行い、専門性の高い図書館を維持してまいります。

Q6. 公文書館の設置についてお伺いします。公文書館は、県民の共有財産としての行政文書を保存・公開し、行政の説明責任を果たすための機関であり、欧米ではその存在は民主主義を支える根幹と言われています。今後、公文書館を設置するお考えはありますか。

A6. 公文書を適正に管理し、歴史的な価値のある公文書を保存し、県民の皆様がいつでも利用できるようにすることは、県の重要な責務であると認識しております。現在、既存の施設を活用しながら公文書館的機能の充実を図っているところですが、将来的には、安全かつ安定的に公文書を保存管理できる施設の整備が必要であると考えております。



静岡図書館友の会 代表 田中 文雄

映画館にはじめて行ったのは、いつだったのか。中学校に入るまでは映画好きの父親と一緒にした。記憶ははっきりしませんが、小学校に行く前にも行ったと思います。1963年、高校1年生の8月からは観た映画と映画館、そして日付だけをメモしはじめました。この時の映画は「007 は殺しの番号」（映画の007の第1作）、それから58年、今年7月までに3,434（観よ観よ）本の映画を観たこととなります。テレビ、DVDなどでは、まず映画は観ません。映画館の暗闇、「待つ」時間のわくわく感、それぞれの個性ある雰囲気が好きです。映画館全盛時代・1960年頃、近所の城東劇場はクーラーの無い中、天井のプロペラ扇風機がゆっくり回り、立ち見まで出る盛況でした。また劇場の前にはかなり大きな絵

看板が置かれ、客を招いていました。1970年代、御殿場の映画館で、やくざ映画のクライマックスに「ラーメンのお客さん、どちらですか」と出前が来た時の驚きも懐かしい思い出です。

この7月に観た映画、山本起也監督の「のさりの島」は「ムラ」に紛れ込んだ「まれびと」である青年と「ムラビト」の関係を描く、大変よくできた現代のファンタジーでした。山本監督は呉服町で長年営業していた「ちぐさ」さんのご主人山本耕三さん（友の会は手回しオルガンの演奏でお世話になりました）のご子息です。昨年「ちぐさ」で耕三さんと静岡空襲の話をしていた時、山本監督の映画クルーが私たちを撮影しました。このドキュメンタリー映画、もしかしたら私が写っているかもしれません。楽しみです。

## 図書館友の会全国連絡会 ZOOM 交流会報告

静岡図書館友の会運営委員 太田 典子

2021年7月3日（土）午後1時から、コロナ禍で今回初めての試みだという図書館友の会全国連絡会、ZOOM交流会が開催された。この頃増えた出演者リモート参加のテレビ番組は見慣れてきてはいたがこの日は、しずともの間のご自宅、大画面テレビに北海道から九州まで30数名の同志が一堂に会し発言し情報交換した圧巻の2時間半だった。

前半は2分の持ち時間で各地の問題提起、状況報告。「しずとも」もここで報告。

休憩をはさみ後半は前半発言の補足、運動の方向性についての意見交換があった。

「今後もネットワークを大切にデジタル化時代のハイブリットな交流会を含め、会本来の存在意義を確認しつつ諦めず活動を継続していこう」、初対面の人を含め「ちょっと壁を乗り越えたかな」との発言で和気あいあいに終了した。

この日の為に役員は参加者募集、役割分担と準備にご尽力。ZOOM会議の予行演習も実施されたとのこと。みえない数々のご苦勞に感謝した。

後方から「しずとも」運営委員としてこっそり見学の私は、とうにMLに発信、明示されていた資料、名簿開封のパスワードさえ読み取れず、再度教えて頂き直前に辛うじて入手できた。そして野次馬参加にもかかわらずデジタル会議初体験で帰宅後、する必要のない緊張をしていた自分に苦笑。“人と人は出会ってこそ”とつくづくアナログ人間を再認識した。でもさすがの私もこの貴重な経験で「ちょっと新時代への壁を乗り越えたかな」とも思った次第だった。



# 市内図書館ニュース

## 市立中央図書館、リニューアルオープン!

静岡市立中央図書館 サービス係長 田中 邦子

静岡市立中央図書館は、老朽化による設備の更新のため令和2年10月から休館し大規模改修工事を実施していましたが、このたび工事が完了し、8月5日(木)にリニューアルオープンしました。今回は、この新しい中央図書館のリニューアルポイントをご紹介します。

一番の目的は、施設の長寿命化のために電気・機械・空調設備などを更新することでしたが、同時にお客様により快適に図書館を利用していただくためのリニューアル感のある工事も実施しています。

まず、読書環境の向上対策として、1階城北公園側の吹き抜け部分に、公園の風景を見ながら過ごせるカウンター式の読書席を18席新たに新設しました<sup>①</sup>。全館LED照明に付け替えも行い、館内が明るくなり読書しやすい環境となりました。

次に利便性の向上対策として、1階公園側に出入口を新設しました<sup>②</sup>。公園とのアクセスが便利となり、公園を活用したイベントや講座など更に充実させてい

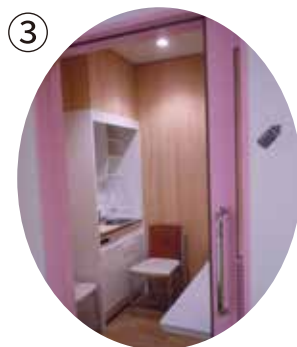
きます。また、現在進行中の城北公園 Park-PFI 事業との連携も進めていき、双方の利用者の増加及び魅力向上を図っていきたいと思います。その他にも、1階児童コーナーにはおむつ替えもできる授乳室や子ども専用トイレの新設<sup>③</sup>、1・2階の成人用トイレも最新の設備にリフレッシュし、お客様が快適に図書館で過ごしていただける環境が整いました。

なお、安全性向上対策として、耐震性強化のためにガラスフィルム貼り付けや防犯カメラの増設も行いました。

その他、主に小・中・高生の皆さんが調べ学習やレポート作成を会話しながらできる「グループ読書室」を2階に新設し<sup>④</sup>、2階ホール前の廊下・読書室・1階おはなしコーナー横の壁面は、静岡産木材を活用しています<sup>⑤</sup>。

一方で、リニューアルオープンに合わせ、館内ルールを大きく2つ見直しました。

一つ目は、蓋付き飲み物を飲むことが可能なエリアを設けたことです。熱中症対策もあり、今までも一



部エリアでは水分補給をしていただくことはできませんが、「飲み物を飲みながらゆっくり読書して過ごしたい」という声にお応えし、水筒、ペットボトル、蓋つきのカップ、ストロー飲料などの蓋つき飲み物を持ち込んで飲んでいただくことが可能なエリアを1階「公園側読書席」「道路側読書席」、2階「読書室」に設けました。

二つ目は、毎週木曜日の午前9時30分から正午までの「コアタイム」の設定です。「図書館を利用したいけれど、小さい子どもがいるので行くのをためらってしまう…」そんな声にお応えし、毎週のおはなし会を行う前後の時間帯を「赤ちゃんや小さな子どもたちでにぎやかになってしまっても周りを気にせず過ごしていただける」時間としました。小さいお子さんがいらっしゃることを心配される方は、まずはこの時間帯から図書館に来ることを始めてみていただけたらと思います。（もちろんこの時間帯以外でも、お越しくださること大歓迎です！）そしてぜひ、この時間

帯に中央図書館で過ごす全ての方には、多少赤ちゃんの泣き声やお子さんの元気な声が聞こえても、温かいお気持ちで見守っていただけるようお願いいたします。

そのほか、視力が落ちて読書がしにくくなったと感じる方へ「大活字図書」、読むことが困難な方や読むのに集中したい方へ「リーディングトラッカー」、主に言葉でのコミュニケーションに支障がある方へ「コミュニケーションボード」のご用意など、ひとりひとりに使いやすい図書館を目指して、様々な工夫を行っていきたいと考えています。新しい中央図書館でお待ちしています！



Designed by pikisuperstar / Freepik

## 令和3年度 第1回静岡市図書館協議会報告

静岡図書館友の会運営委員 清 尚子

2021年7月16日に清水中央図書館にて本年度の図書館協議会が開かれました。

委員10人中8人が出席、傍聴はお2人でした。

事業報告ではコロナ禍で入館者数が42%減少したが個人貸出点数は16%の減少にとどまり、予約件数は10%増加と報告されました。図書館の必要性を実感した瞬間でした。また、制限された中で行われた事業が静岡市業務改善提案の「コロナ特別賞」と「最多取組み賞」を受賞し、図書館の工夫や積極性が評価されたことを聞き、嬉しく感じました。

事業に関して委員からは

- ・小規模小学校の「ちよい読み文庫」を評価する意見
  - ・外国人など潜在的な利用者層を開拓してほしい
  - ・情報格差が広がらないよう利用者教育に力を入れてほしい、また、社会的少数者に寄り添う事業も必要
  - ・学校図書館との連携を続けてほしい
- などの質問、意見が出ました。

中央図書館のリニューアルでは公園側に出入口ができること、蓋つき飲み物を持ち込めるようになったこと、声を出してもいい時間帯をつくることができ大きく伝えられました。最初は混乱があるかもしれませんが、利用者目線で考えられた改善点に協力して成功させたいと思います。

新型コロナ対策とその後についてはすべてコロナ前に戻るのではなく、よく検討したうえで進化していくよう各委員から意見が出ました。ほとんどの委員が今期で最後になるため、追加で職員のモチベーションを高める仕組みを図書館で積極的に行ってほしいと切に要望する意見が出ました。

## 第23回静岡県図書館交流会

### 災害と図書館「3.11と福島の図書館員」

日時：10月10日(日) 13:20～ 場所：静岡県立中央図書館 会議室

講師：福島県立図書館専任司書 鈴木史穂氏

日本図書館協会認定司書 福島県立図書館専任司書 日本図書館協会代議員

東日本大震災は、福島県立安積黎明高校で学校図書館司書として勤務中に体験。その後、福島県内図書館で児童サービス、研修、協力事業などに関わる。

日本図書館協会図書館災害対策委員会委員

主催：静岡県図書館交流会実行委員会・静岡図書館友の会／協力：新たな静岡県立図書館を望む会／後援：静岡県立中央図書館・静岡県図書館協会

申し込み方法：メール・ハガキ 定員：先着40名（9月末申し込み締め切り）

詳しくは、チラシをご覧ください。

## 2021しずとしょフェスタ 『あいうえあそぼうとしょかんで』

日時：10月24日(日) 10:00～ 場所：静岡市立中央図書館

・おはなし会 10:00～

・スギヤマカナヨ氏講演会「ミャンマーの子ども達と絵本」(仮) 13:30～※

・『あいうえあそぼうとしょかんで』スタンプラリー(子ども向け)

・デイズ図書館視聴体験 10:00～

・『あいうえあそぼうとしょかんで』原画/パネル展示、図書特集

※新型コロナ感染状況により変更の可能性があります。

詳しくは、チラシをご覧ください。

## 2022年度総会・ドリアン助川氏講演会

### 小説『あん』に込めた気持ち ～生きることのもう一つの意味～

日程：2022年3月6日(日) 場所：札の辻クロスホール(予定)

ドリアン助川氏プロフィール

1962年生まれ。明治学院大学国際学部教授。早稲田大学第1文学部東洋哲学科卒。放送作家・海外取材記者を経て、1990年バンド「叫ぶ詩人の会」を結成。深夜ラジオのパーソナリティとしても活躍。2015年樹木希林主演で映画化された『あん』はじめ、著書多数。

詳細が決定しましたら、会員の皆様にはお知らせし、当会HPに掲載いたします。

静岡図書館友の会会報 No.26 2021.9  
静岡図書館友の会 代表 田中 文雄  
連絡先：(事務局携帯) 080-6910-9434  
Eメール：sizutomo2008@yahoo.co.jp  
HP：http://shizutomo.sakura.ne.jp/  
会員数：215人（2021年7月現在）

#### 編集後記

・コロナ禍のオリンピックは、嵐の中を進む船のようでした。女性、人種、環境他たくさん問題が渦巻き「感動」と同じくらい「虚無感」を味わいました。せめて近くに潜む課題には自分なりに向き合いたい、と思うのです。(S)  
・図書館で各地のガイドブックを借りるのが最近のマイブーム。この夏は北海道ドライブから四国一周と「妄想」旅行を満喫しました。でも欠けているのは、人との出会い。やっぱり「リアル」な旅が恋しくなりました。(Y)